

「文人武将 細川幽齋、その光と影」

戦国時代有数の武将でありながら、
当時最高の文化人として名高く、危機管理、処世の達人として、
そのしたたかな生き方は現代においても学ぶところが多い。

- NHKの大河ドラマ「葵・徳川三代」も、
関ヶ原の決戦が済み、戦後処理も終わって、
いよいよ徳川幕府265年の基礎固めに入りました。
- 動乱時代にあって、細川家は、
足利幕府の要職から織田・豊臣・徳川と四代に仕え、
明治維新まで生き残り、さらに平成の現代には
その子孫の護熙氏がついに内閣総理大臣にまで登りつめました。

細川家の基礎を築いた細川幽齋（藤孝）についてお話をお聞きます。



-
- とき 平成12年5月18日(木)
午後7時30分～
 - ところ 森岳公民館・大ホール

—— 入場無料 ——

□ 講師 平湯 晃(あきら) 先生

～島原市の出身で、実業界にご勤務、定年退職後、独自のご研究により、その内容を書物として発表。とくに、近著の「細川幽齋伝」は貴重な資料に基づく長年の研究成果で高い評価を受けている。～

【プロフィール】 1918（大正7）年、島原市生まれ。1939（昭和14）年、長崎高等商業学校（現長崎大学経済学部）卒業。満州軽金属、松庫商店などに勤務。

【おもな著書】 「利休の泪」「聖フランシスコ・ザビエルの日傘」「細川幽齋伝」他

□ 主催 島原市民文化講座・島原文化連盟・島原市教育委員会

●問合せ先 島原文化連盟／TEL62-2101・島原市教育委員会／TEL62-8031
